資　料　1

県復興委員会 総合企画専門委員会による現地調査の結果について

【要旨】

県復興委員会 総合企画専門委員会（齋藤徳美委員長）では、復興の取組状況や課題等を実地に調査するため、平成 24 年６月７日に沿岸北部（久慈市及び野田村）、６月８日に沿岸南部（釜石市及び大槌町）を対象とした現地調査を行いましたので、その概要を報告いたします。

１　目的

復興の取組状況や課題を実地に調査し、総合的、専門的な見地から復興計画の進捗に関する意見をいただき、今後予定している「復興実施計画」の見直し等に反映させる。

２　日程・調査先

（１）沿岸北部（久慈市及び野田村）〔６月７日（木）〕

・久慈市漁業協同組合食品加工場（視察）
・野田村復興促進協議会（意見交換）
・野田村役場（意見交換）

（２）沿岸南部（釜石市及び大槌町）〔６月８日（金）〕

・釜石市鵜住居地区（視察）
・株式会社津田商店（意見交換）
・赤浜の復興を考える会（意見交換）

３　調査者

６月７日（木）齋藤委員長、平山委員、谷藤委員（委員３名）
６月８日（金）齋藤委員長、平山委員、谷藤委員、豊島委員、広田委員（委員５名）

４　調査概要

（１）沿岸北部（久慈市及び野田村）〔６月７日（木）〕

項　目	意見交換等の概要
久慈市漁業協同組合食品加工場	・震災復旧対応のため、特例として高い補助率（水産業共同利用施設復旧支援事業）が適用されたことにより、少ない自己負担で再建ができた。 ・工場の能力は震災前と同程度回復したものの、**半年間の休業が影響し、新たな販路拡大や新商品開発**が課題。
野田村復興促進協議会	・**目に見える復興の象徴として、中心部に核となる複合型避難施設を整備**し、新たなまちづくりをしていきたい。 ・高齢化が進み、１次産業は生産能力が低下していくので、**６次産業化による新たな産業を生み出すことが必要であり、技術面や販路の支援が必要**。 ・計画がどの程度進んでいるのか情報が十分に伝わっていない。
野田村役場	・被災市町村の中では、復興への取組が進んでいると思われているが、**被災者の目に見える復興にはまだ至っていない**。 ・復興には長期間を要する。支援制度の適用期間が必要な時期とずれることがないようにして欲しい。

（２）沿岸南部（釜石市及び大槌町）〔６月８日（金）〕

項　目	意見交換等の概要
釜石市鵜住居地区	釜石市都市整備推進室から鵜住居地区面整備事業について説明 ・復興交付金事業の都市再生区画整理事業、津波復興拠点整備事業の活用 ・「かまいし希望の丘」整備構想（多目的公園整備、運動施設の集約） ⇒齋藤委員長から、L2 浸水想定域では JR 山田線より内側が浸水しない想定となっているが、浸水を想定したソフト対策を十分に検討すべきとの意見あり。
㈱津田商店（水産加工業）	・再建後、協力社員の多くを再雇用できたが、まだ人手が十分ではない状況。 ・現在の水産加工業は装置産業化し、長期でコストを回収するビジネスモデルとなっていることから、臨海地域で事業を行うにはリスクが高く、海から離れた内陸での操業が必要になっている。その際の地域住民との関係も課題となる。
赤浜の復興を考える会	・鑑定評価結果が他の地区と差があったが、同じ被災した地域でなぜ差が出るか疑問。高所移転に向けた住民の判断に影響を与えている。 ⇒県から、市町村の要請を受け行った鑑定評価の考え方について説明を行った。 ・漁港、船揚げ場、防潮堤等の早期の整備が急務。先が見えず、半分以上の人が漁業をやめたいと言っている。 ⇒復興に関する公共事業の工程表を明確にする方向で検討中であることを説明。 ・自主防災組織の組織化、地域の防災機材の整備を県としてしっかり支援すべき。

現地視察の様子

（１）沿岸北部（久慈市及び野田村）〔６月７日（木）〕

・久慈市漁業協同組合食品加工場（視察）

・野田村復興促進協議会（意見交換）

・野田村役場（意見交換）

（２）沿岸南部（釜石市及び大槌町）〔６月８日（金）〕

・釜石市鵜住居地区（視察）

・株式会社津田商店（意見交換）

・赤浜の復興を考える会（意見交換）